

個別事業評価

事業No.	52	施策の柱への位置づけ	柱⑨ 将来を見据えた教育風土づくり	
事業名称	産業振興食育推進事業費		担当課	スポーツ健康教育課
			当初予算額(千円)	7,952
			補正後予算額(千円)	5,389
			決算額(千円)	4,277

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> ◆ 地元でとれた野菜や魚介類を学校給食に取り入れてもらいたいという生産者の思いと、安全・安心な食材を学校給食に取り入れたいという学校給食実施側の思いが結びついていない。 ◆ 多種類の野菜を計画栽培する体制づくりや、地元で大量にとれた魚介類を加工・冷凍する技術体制が充分でなく、学校給食に必要な量を安定供給できていない。 ◆ 開発した加工食品等の学校給食への利用が一部の地域で一過性に終わっており、継続した供給体制ができていない。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 生産者や学校給食関係者との日常的な情報交換や、地場産物活用に関するアンケート調査で把握できた。
		<b>【要因】</b> 地元産の新鮮で安全・安心な食材を使いたいという学校給食関係者の思いと、子どもたちに地域でとれた食材を使ってもらいたいという生産者や漁業関係者双方の思いが繋がっていない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 生産者や学校給食関係者との日常的な情報交換や、地場産物活用に関するアンケート調査結果により、概ね要因を特定していた。
②	目標(Outcome)	学校給食の地産地消日本一を目指す。 (平成23年度) ◆ 食育の推進、安全・安心な学校給食の普及充実 ◆ 地場産物を学校給食に取り入れるための課題の共有と推進体制の構築 ◆ 地場産物の活用の促進、安定供給体制の構築 ◆ 一次産業に対する興味・関心の高揚 ・実態把握 ・課題の共有	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 「学校給食の地産地消日本一を目指す」という目標を設定していた。 平成19年度 37.3%(全国第6位) 国調べ(食品数ベース) 平成20年度 37.0%(全国第5位) "
		<b>【検証(比較)方法】</b> ① 地場産物活用状況調査結果 ② ネットワーク会議の討議内容 ③ 食育・食農教育等の体験学習の実施内容	<b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) <b>① 地場産物活用状況調査</b> ・学校給食の地場産物活用状況 県調べ(食品数ベース) 平成20年度 37.0% → 平成21年度 43.4%(全国第2位相当) 市町村産、県内産、県外産、国外産など、生産地別の学校給食における使用割合や1回当たりの使用量、高知県の基幹11品目の使用回数と使用量を把握することができた。 <b>② ネットワーク会議</b> 生産者や流通関係者、学校給食関係者からなるネットワーク会議の場で、学校給食へ地場産物を活用するための課題の共有や情報交換ができた。 <b>③ 食育・食農教育等体験学習</b> 「自分たちが毎日当たり前食べている米が約半年かかって実ること、その間の草取りや水の管理など、米づくりの大変さを地元の農家の方に教えてもらった。」「自分たちが6月に植えた稲が大きく成長し、黄金色に輝いているのを見て大喜びだった。」などの感想があり、一次産業の役割や感謝の心を学ぶなど、一次産業に関心を持つ子どもが増えた。
③	実施内容(Input・Output)	① 地場産物活用状況調査の実施 地場産物の活用状況について、使用割合、量、回数等を把握する。 ② ネットワーク会議の開催(30回) 関係者間で、地場産物を学校給食に取り入れるための課題の共有と情報交換を行う。 ③ 食育・食農教育等の体験学習の実施(100回) 子どもたちの、一次産業に対する興味・関心を高める。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) <b>① 地場産物活用状況調査</b> ・平成21年9月～22年2月の6ヶ月間、98施設実施 ・学校給食の地場産物活用状況 県調べ(食品数ベース) 平成20年度 37.0% → 平成21年度 43.4% <b>② ネットワーク会議</b> ・高知県地場産物活用ネットワーク会議の開催(2回開催) ・地域ネットワーク会議の開催(5地域、9回開催) ・地域独自のネットワーク会議等の開催(6地域、71回開催) <b>③ 食育・食農教育等体験学習</b> ・13市町村、37校、109回実施
		総合評価と今後の方向性	<b>目標達成度</b> <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/> 引き続き、学校給食への地場産物活用を図るため、地域ネットワーク会議の開催や食育・食農教育等の体験学習の実施などにより、地域の生産者や流通関係者、ボランティア団体等と連携し、学校給食への地場産物の安定供給体制の構築と、地場産物への理解促進、自然や文化、産業に関わる人々への感謝の心を育てる教育を行う。 併せて、高知県の基幹11品目を使った学校給食用の献立メニューの開発及び全国への情報発信を行う。 また、平成22年度以降、本事業を「心を耕す教育」に位置づける方針である。

**個別事業評価**

事業No.	53	施策の柱への位置づけ	柱⑨ 将来を見据えた教育風土づくり	
事業名称	ふるさと教育推進事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	2,444
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	2,438

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> 全国学力・学習状況調査の結果から、本県の子もたちは地域が好き(小学生85%、中学生70%)であり、地域の歴史や自然についても関心がある。しかし、一方で地域の行事への参加率、近所の人に挨拶する子どもの割合は全国平均より低い傾向にある。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 全国学力・学習状況調査結果により現状分析をしているため、数値的には正確に把握できている。
		<b>【要因】</b> ◆ 地域での人間関係が希薄である。 ◆ 住んでいる地域の歴史や自然について学習する機会が少ない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成17年度文部科学省委託調査「地域の教育力に関する実態調査」より分析を行ったので特定できている。
②	目標(Outcome)	◆ 地域で専門性や広域性を活かして活動している団体と連携して次の2点に取り組む。 ①地域の歴史について学ぶ機会の提供 ②子どもたちの地域での活動や交流の推進  ◆ 県内の小学5、6年生が、土佐の偉人である坂本龍馬の生い立ちや功績を知る。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 各団体による活動についての達成目標であるため、団体の現状から妥当な目標設定であったと考える。  <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 事業に参加した子どもたちは、「郷土の偉人である坂本龍馬に対し理解を深める」、「新たな人との出会いを通じて思いやりの心を醸成する」、「地域の伝統文化の継承者としての認識を高める」ことができた。  ①【地域の歴史について学ぶ機会の提供】について ・<土佐史談会> 坂本龍馬に関する学習機会を前年度の約2倍である15回提供することができた。(平成20年度8回)  ②【子どもたちの地域での活動や交流の推進】について ・<高知県連合婦人会> おもてなしの心をもったお接待により、県内外の方からお手紙が届くなど、子どもたちは婦人会の方はもとより県外の方たちとの交流を広げることができた。 ・<高知県青年団協議会> 中学生が地域の青年たちと地域の伝統芸能である太鼓や神楽を練習し発表を行うことにより、地域の継承者としての意識が高められた。  ◆「坂本龍馬を知っちゃおう？」を配布し、各校に活用を働きかけたが、具体的な活用状況は把握できていない。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 委託先団体の実績報告書 ◆ 団体事務局からの聞き取り	
③	実施内容(Input・Output)	◆ <土佐史談会実施計画> ①龍馬学十講座 ②龍馬ゆかりの地探訪 ③高校出前講座  ◆ <高知県連合婦人会実施計画> 室戸市・安田町・土佐清水市の婦人会が中心となって地域の子もたちに広く参加を呼びかけ、お接待袋やメッセージなどを制作し、その作品により子どもたちと一緒にお遍路さんに接待する。  ◆ <高知県青年団協議会実施計画> 高知県青年大会文化部門において、青年や保護者、地元のお年寄りから指導を受けた子どもたちが神楽などを発表する。  ◆ 坂本龍馬の生い立ちや功績等を学習するための冊子(「坂本龍馬を知っちゃおう?」)を作成し、県内すべての小学5、6年生に配布し、各学校にその冊子の活用を働きかける。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> )  ◆ <土佐史談会> ・龍馬学講座を5月～2月の間に、県立文学館で10講座開催 延べ1,064名が参加 ・ゆかりの地探訪を、5月17日に東部地区(芸西村・安芸市等)、10月18日に西部地区(須崎市、構原町)で実施 延べ83名が参加 ・高校出前講座を、中芸高校(9/4)、高知北高校(9/17)、構原高校(12/12)で実施 高校生延べ146名が学習 ◆ <高知県連合婦人会> 26番札所金剛頂寺(西寺)(11/7)、27番札所神峰寺(9/17)、38番札所金剛福寺(10/24・11/14)でお遍路さんへのお接待を実施 小学生と婦人会員の延べ148名が参加 ◆ <高知県青年団協議会> 青年大会(9/6)にて神楽・太鼓の伝統芸能を披露 延べ81名が参加  ◆ 県内全小学5、6年生(14,203人)に「坂本龍馬を知っちゃおう?」を配布し、活用を働きかけた。
		<b>総合評価と今後の方向性</b>	目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/>  ◆ 3団体とも助成を受けることにより活動が活発になるとともに、事業に参加した子どもたちは、地域の歴史を学び、地域の人々との交流を深めることができた。 ◆ 「坂本龍馬を知っちゃおう?」は、小学生には分かりやすく、坂本龍馬の功績を学習するには素晴らしい教材である。次年度は専門家に小学生用龍馬検定を作成してもらい実施することにより、歴史学習のきっかけとしたい。

個別事業評価				
事業No.	54	施策の柱への位置づけ	柱⑨ 将来を見据えた教育風土づくり	
事業名称	社会教育研修指導費		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	1,023
			補正後予算額(千円)	-
		決算額(千円)	613	

		当初	年度末
①	現状 (課題) と その要因	<b>【現状】</b> 市町村教育委員会では、社会教育担当者の配置が減少するとともに、社会教育主事資格を保有している職員が少なく、社会教育についての研修を単独で実施できない。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 文部科学省で行っている社会教育調査及び、市町村教育委員会への調査により把握している。
		<b>【要因】</b> ◆ 県内市町村教育委員会の社会教育担当職員が減少している。 (平成17年度:47人 → 平成20年度:35人) ◆ 社会教育主事資格を保有している職員を配置している市町村は、半数以下に留まっている。 ◆ 社会教育主事資格を取得する社会教育講習に参加をさせることができない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 人員については、文部科学省社会教育調査結果から引用し、社会教育主事資格者については当課で把握している。
②	目標 (Outcome)	◆ 県内全市町村の社会教育行政担当者や社会教育委員、公民館職員等の資質向上を図る。 ・ 5割の市町村が全研修会に参加する。 ◆ 研修会参加者満足度80%を目指す。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 数値目標としては設定できないが、研修会に全市町村の参加を目標として位置付けた。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 社会教育を推進するためには、市町村社会教育関係者の企画力・コーディネート力が必要である。そのためのスキルアップ研修会を開催し、市町村からは9割を超える参加があった。また、研修の内容についても約8割の満足度が得られた。
		<b>【検証(比較)方法】</b> 研修会参加者アンケート調査の分析	◆ 34市町村中31市町村が1回以上参加 (うち11市町村:32%が全てに参加) ◆ 市町村数参加状況 第1回:満足度:76% 第2回:満足度:東部91% 中部78% 西部72% 第3回:満足度:74%
③	実施内容 (Input・Output)	市町村の社会教育・生涯学習関係職員等を対象に、職務に必要な専門的知識・技術に関する研修を開催する。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 第1回(県内全域対象) 6月8日実施 19市町村 53名参加 ◆ 第2回(各事務所単位) 西部地区10月9日実施 中部地区10月15日実施 東部地区10月16日実施 午前:新任研修、午後:一般研修の終日研修の内容 3地区合計で24市町村 111名参加 ◆ 第3回(県内全域対象) 2月3日実施 7市町村 55名参加
		◆ 第1回(県内全域対象) ・ 社会教育、生涯学習の動向及び県の施策について行政説明 ・ 地域づくりについての講演 ◆ 第2回(各教育事務所単位) ・ <新任研修> 社会教育計画の基礎及び簡単な学習プログラム ・ <一般研修> 地域課題に対応した社会教育・生涯学習の在り方 ◆ 第3回(県内全域対象) ・ 地域づくりについての実践交流	
総合評価 と 今後の方向性			目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/>
			各市町村教育委員会の社会教育に関わる現状は厳しい状況にある。県として社会教育を推進していくためには、市町村教委担当者の資質向上は不可欠であり、本研修が市町村の現状に対応し、より充実した内容としていく必要がある。

個別事業評価			
事業No.	55	施策の柱への位置づけ	柱⑨ 将来を見据えた教育風土づくり
事業名称	全国生涯学習フェスティバル推進事業	担当課	全国生涯学習フォーラム推進課
		当初予算額(千円)	2,791
		補正後予算額(千円)	13,771
		決算額(千円)	10,217

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> 県民の生涯学習に対する意識の高まりが十分でなく、生涯学習に係る諸活動も地域によって格差があるなど、生涯学習の機運の醸成にまで至っていない。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 公民館連絡協議会や社会教育関係の諸会議のほか、NPO生涯学習支援センターの取り組みを通して、本県の生涯学習の現状を把握していた。
		<b>【要因】</b> 本県には、生涯学習を総合的に推進する中心的役割を担う生涯学習推進センターが未設置であるほか、既存の社会教育施設の活用が十分とは言えない状況にある。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 青少年施設連絡協議会での協議を踏まえ、現状の課題を特定した。
②	目標(Outcome)	※ 平成22年11月に開催する全国生涯学習フォーラム高知大会は、本県の課題解決に取り組む姿勢を全国に発信するとともに生涯学習の振興に取り組んできた全国の方々との交流を深め、県民の生涯学習に対する機運を高めることを目的としており、平成21年度は大会に向けた準備作業として下記を実施する。 ① 国、市町村、関係団体等との実行委員会を立ち上げ、大会の準備を進める。 ② 開会式、シンポジウム、事例発表などの催事、広報、運営計画等の具体的な概要計画書を作成する。 ③ 全国生涯学習フォーラムを県内外に周知し、開催の気運を高める。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 準備期間が短いなかで、年度内に行うべきことを設定した。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 実行委員会の立ち上げ、実施計画の作成は達成できた。 ◆ 周知のための最初のしかけとして、大会概要説明資料(ポンチ絵)を作成し、関係機関への周知を図った。大会自体の認知度が低いため、今後、県民への周知に力を入れる必要がある。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 大会実行委員会の設立 ◆ 県内外への周知のための広報活動の状況確認	
③	実施内容(Input・Output)	◆ 実行委員会の開催 ◆ 基本計画、実施計画の策定 ◆ 文部科学省との打合せ ◆ 周知のためのチラシ印刷、配付	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 先催県から見ると準備期間がかなり短い <sup>が</sup> 、目標設定を明確に示しスケジュール管理を綿密に行ったことで、概ね計画通り実施できた。 10/28 実行委員会設立総会、第1回実行委員会開催 基本計画の決定 11-12月 各テーマ別フォーラムプロジェクト委員会の立ち上げ 2/24 第2回実行委員会開催 実施計画の決定 (ロゴマーク、キャッチフレーズ等決定) 1/ 6 県立学校長会 2/19 市町村教育委員会連合会定期総会等で説明
		<b>総合評価と今後の方向性</b>	目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/> 全国生涯学習フォーラム高知大会の開催に向けて、実行委員会の立ち上げ、実施計画の作成は概ね達成できた。大会自体の認知度が低いため、今後も広報活動を積極的に行い、県民への周知に努める。

個別事業評価				
事業No,	56	施策の柱への位置づけ	柱⑨ 将来を見据えた教育風土づくり	
事業名称	高知城保存整備事業費		担当課	文化財課
			予算額(千円)	57,753
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	57,524

		当初	年度末
①	現状 (課題) とその要因	<b>【現状】</b> 高知城三ノ丸の石垣が構築から400年を経過し、割れや孕みが目立ち危険性が指摘されている。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成18年度までの解体調査により、割石の数量、原因の調査を実施した。
		<b>【要因】</b> ◆ 石の劣化、裏栗石の目詰まりなど	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 裏栗石の断面不足及び目詰まり ② 目詰まりなどにより土圧がかかった石が押し出され孕む。 ③ 石が動いた結果、石の当たりが変わり加重が集中した石が割れる。
②	目標 (Outcome)	◆ 1611年に構築された当時と同じ野面積みの技術により、文化財としての石垣の価値を損なうことなく安定性の高い石垣を、下記のポイントを基に再構築する。 ・文化財の修復工事に求められる忠実な復元を行う。 ・「土佐龍馬であい博」開幕(2010年1月16日)までに竣工させる。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 目標の達成状況を検証できる具体的なポイントを設定していた。 ・忠実な復元であること ・時間設定
		※ <目指す方向性> これまでの修復作業で発見された、水路遺構及び長宗我部期の石垣遺構展示工事を、高知城趾の文化財としての価値を高める。	<b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 文化財の修復や土木工事の専門家、文化財石垣の修復を専門とする業者と綿密な検討協議を行いながら実施し、堅固で忠実な石垣修復ができた。また、新たな遺構展示が加わったことによって、文化財としての価値が高められた。 ◆ 長宗我部期石垣遺構の展示方法の検討に日時を要したため、1月25日まで工期延長せざるを得なかったが、工事については展示用看板設置を除き12月末までに完了し、「土佐龍馬であい博」への影響を最小限に抑えることができた。
③	実施内容 (Input・Output)	①石垣積み直し135㎡ ②長宗我部期石垣遺構展示 ③水路遺構復元展示	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) 修復必要箇所および展示予定種目については計画通り実施できたが、水路遺構復元展示については、当初は2箇所を計画していたが、石垣修理に見込みより費用を要したため1箇所展示となった。
		※ 発掘調査の成果に基づいて、史実の忠実な復元となるよう専門家による点検評価を受ける。	
総合評価 と 今後の方向性			目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <b>オ</b> ◆ 解体調査の結果によって、事業費及び年度ごとの施工計画が決定されるものであり、あらかじめ計画を立てて進行管理することが難しい。 ◆ 次に修理を計画している追手門石垣については、事前調査を元に十分な予算と事業期間を確保する。